

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2022年7月22日号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第8回仙台国際音楽コンクール【開催日程】ヴァイオリン部門 2022.5.21(土)~6.5(日) ピアノ部門 2022.6.11(土)~2022.6.26(日)

第8回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門 ファイナル&ガラ・コンサート・レポート

片桐 卓也(音楽ライター)

第8回仙台国際音楽コンクールのヴァイオリン部門ファイナルには6人のコンテストが進んだ。日本から3人、ロシア、韓国、中国から各1人の計6人である。前回と同じように、ファイナルではモーツァルトの5曲のヴァイオリン協奏曲から1曲、そしてベートーヴェンから20世紀までに至る協奏曲の傑作から選ばれた15曲の中から1曲を選んで演奏する。ファイナルの演奏は、各日ともまずモーツァルトを2人が続けて演奏、休憩後に別の2人がそれぞれの選んだ課題曲を演奏するという形で行われ、その演奏順は抽選で決まった。聴衆は、1日で4人の違ったコンテストの演奏を聴くことが出来た。

第1日目(6月2日)には、まず日本人ふたりが登場した。中村友希乃がモーツァルトのK219(イ長調)を、次いで中野りなもK219を選択し、広上淳一指揮の仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演した。今回のファイナリストは、モーツァルトではK219を4人が、2人がK218を選択した。中村も中野も整った音色で、丁寧な演奏を心がけていた。第1日目後半にはホン・ソンラン(韓国)がプロコフィエフの「ヴァイオリン協奏曲第2番」を、続いてデニス・ガザノフ(ロシア)がショスタコーヴィチの「ヴァイオリン協奏曲第1番」を演奏した。ふたりとも、テクニクを前面に出した派手なアプローチではなく、作品の中の真実を音にしようとして心がけている点が印象に残った。

モーツァルト以外の選択曲に関して言えば、第8回はチャイコフスキーを選択したコンテストはひとりもおらず、全員が違う作曲家の作品を選んだが、これは世界的なコンクールのファイナルとして異例なものだと思った。と同時に、指揮者とオーケストラは3日間で少なくとも6曲は違う協奏曲を演奏しなければならないということの意味があるので、準備において、とても大変な負担を強いられたと思うが、それを乗り越えて、素晴らしい演奏、サポートぶりを見せてくれた。

第2日目(6月3日)は、前半にマー・ティエンヨウ(中国)がモーツァルトのK218(ニ長調)を、橘和美優(日本)がK219を演奏し、後半には中村友希乃がブラームスの「ヴァイオリン協奏曲」を、中野りながバルトークの「ヴァイオリン協奏曲第2番」を演奏した。前半のふたりのモーツァルトも、前日の中村&中野と同じように、素直なアプローチで、モーツァルトの世界を崩さないようにという意識が強く感じられた。後半では堂々とした演奏で中村がブラームスを弾き切り、中野は最年少のファイナリストながら、すでに自分の手の中にすっかり入ったかのようにバルトークの「ヴァイオリン協奏曲第2番」を弾き切り、聴衆の大きな拍手を浴びていた。

第3日目(6月4日)は、前半にホン・ソンランがK219、デニス・ガザノフがK218を演奏した。ふたりとも丁寧な演奏ではあったが、少し物足りなさも感じた。ファイナリスト全員に共通して言える感想として、モーツァルト作品の中にある音楽的な煌めき、閃きを捉えようとする努力や、それを実現する演奏の方向性がまだ見えてないような感じがした。モーツァルトの世界は、一見たやすく、しかし奥深い。そこをこれからもっと追究して欲しい。後半には、マー・ティエンヨウがシベリウスの「ヴァイオリン協奏曲」を、橘和美優がサン＝サーンスの「ヴァイオリン協奏曲第3番」を演奏した。マーのスケールの大きさを感じさせるシベリウス、橘和の感受性豊かなフランス音楽の解釈を楽しむことが出来た。

結果としては、中野りながこのコンクール史上最年少となる17歳で第1位に輝き(2004年の松山冨花以来の日本人優勝者である)、困難な状況乗り越えて参加したデニス・ガザノフ、そしてマー・ティエンヨウが第2位を分け合い、第4位ホン・ソンラン、第5位橘和美優、第6位が中村友希乃となった。演奏後の壇上にはファイナルの審査に参加したギドン・クレーメルも他の審査委員と共に並び、穏やかな笑顔を見せてくれていた。

6月5日に行われたガラ・コンサートは上位3人がファイナルと同じ協奏曲の演奏を行ったが、ファイナル以上に伸びやかで、集中力のある演奏を繰り広げ、長いコンクール期間を共に過ごした仙台フィルとの共演を楽しんでいるように思えた。

第8回コンクールの演奏をYouTubeでお楽しみいただけます https://simc.jp/8th_competition/movie/
両部門の予選からファイナル、ガラコンサートのオンデマンド配信を9月30日(金)まで行っています。ぜひご視聴ください。



■お問い合わせ/公益財団法人 仙台市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局
〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel:022-727-1872 Fax:022-727-1873
E-mail:info@simc.jp URL:https://simc.jp

第8回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門ファイナル演奏評

松本 學(音楽評論家)

第8回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門のファイナルに残った6名が選んだ課題曲は、モーツァルトこそ第4番と第5番の2つに絞られたが、もう1曲の方は6名がどれも異なる作品をチョイスした。以下、出場順にコメントする。

中村友希乃：モーツァルトは音も造形も端正で、正統派というべきアプローチ。後半に向かって余裕も生まれてはいたが、前半の若干の不安定さと全体に音楽がややこじんまりとしてしまっていたのが課題だろう。ブラームスでは最初からテンポが定まっていない感じでオーケストラとの齟齬を感じさせたが、その後暗譜が飛んだ箇所もあり万全とは言い難い出来に終わった。体調を崩し、しばらく楽器を離れてからの復帰ということで、本人も準備不足と語っていたが、逆に言えばそれでもファイナルに残れる才能と実力に恵まれた方なので、今後に期待したい。

中野りな：彼女のモーツァルトは推進力もあり、また大袈裟ではないがキャラクターを巧みに歌い分け、リスナーを飽きさせない。オーケストラとの合わせどころをよく把握しており、指揮を見る余裕もあって、アンサンブルもできていた。音楽の説得力と求心力によって、共演相手のオーケストラのポテンシャルを引き出す力すらあると感じられる。バルトークでも不安なところが一切ない安定ぶり、ボウイングも美しく、どの弦でも立ち上がりやすい音を聴かせた。より濃密な表現を追究していけばさらに優れた音楽家になるだろう。

ホン・ソンラン：モーツァルトは第1楽章のアダージョの導入などとても素晴らしく、全体としても音は美しく流れも自然にまとめている、高い才能を感じた。耽美的とも言える濃密な味わいを聴かせた第2楽章も印象的だ。一方プロコフィエフも正確かつしっかりと演奏。その上で望むとするならば、作品の持つファンタジーやシリアスさ、ダークさなどのキャラクター描写がやや一本調子だったのでその面でより多様な表現が欲しい。デュナーミクの幅ももう一歩か。

デニス・ガサノフ：モーツァルトは第4番を選択。第2楽章のテンポは心地よく、楽譜の指示通り“アンダンテ・カンタービレ”らしい。第3楽章は心持ちゆったりで、音楽のキャラクターを緩急や独特の味付けで弾き分けておりユニークだった。ショスタコーヴィチではオーケストラとの絡みは完璧とは言い難かったが、テクニクは高く、ポイントもしっかりと押さえている。カデンツァの集中力も素晴らしい。惜しむらくは楽器。ファイナル前の段階から気になっていたやや線の細い音は使用した18世紀フレンチの楽器のためだ。しかしそこからしっかりと曲想に合った音を引き出し、重音も美しく鳴らしていたのは彼の実力の成せる技である。ただそれだけにもう少しよい楽器を持たせてあげたかった。

マー・ティエンヨウ：前回の最高位入賞者シャノン・リーのカーティスの後輩に当たる彼は、モーツァルトではアクセントの強い演奏で、独特の間が個性的。シベリウスでも第1楽章から弓を強くプレスした強めの太い音で、テンポを揺らし、アクセントも強く、かなり濃厚でエモーショナルな演奏だ。時に恣意的で疑問も感じるが、コンクールでも守りに入らず、表現を打ち出しているのはよい。ハイポジションのピッチも正確で重音のテクニクもしっかりしている。第2楽章でのヴィブラートの使い分けも音楽的。と同時に、かなり高いテクニクを持ちつつ、時に雑に聴こえる点と、その要因の一つであろう楽器が気になった。

橘和美優：モーツァルトから楽器もよく鳴りもよい。端正でピッチもよく造形も丁寧、オーケストラの演奏もよく聴けていて、減点するところが少ない完成度の高い演奏。弓のプレスが一定を超えると僅かにノイズが入るようにも感じた。サン＝サーンスは別のコンクールで弾いていたこともあり、オーケストラ・パートもよく把握しており、不安要素がほとんどない。敢えて言えばデュナーミクやもう一歩踏み込んだ表現がほしいか。しかし、彼女の音楽はとてものびのびとしており、健康的で好感が持てた。

翌日のガラ・コンサートにはマーとガサノフ、中野の3名が出演。ファイナルのプレッシャーから解放された演奏だが、彼らの演奏スタイルや、そこから受ける印象はもちろんファイナルと変わらない。そのような中、中野の安定感は群を抜いていると思う。将来が極めて楽しみだ。



■お問い合わせ／公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局
〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel:022-727-1872 Fax:022-727-1873
E-mail:info@simc.jp URL:https://simc.jp